療法名 S−1+CDDP

適応 胃癌

抗癌剤適応分類 進行・再発癌

第2版	2025年1月改訂
登録番号	胃−1
登録年月日	2013年1月

投与順	抗癌剤名（一般名）	【略語】	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	**エスワンタイホウ ®** （テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム ）	S−1	80mg/m^2（※1）	経口	朝・夕食後	d1～21
2	**シスプラチン** （シスプラチン）	CDDP	60mg/㎡	点滴静注	2時間	d8（※2）

	day	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	…	…	35
S−1	80mg/m^2※1	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓										
CDDP	60mg/㎡								↓																							

1コース期間 （次のコースまでの標準期間）	5週
総コース数	原則8コースまで、状態によってはPDまで投与可能
コース間での休薬規定	次コースは前コースd36以降

減量規定・中止基準	チェックリスト参照
投与量の増量規定	なし
投与間隔の短縮規定	なし
コースによる変化	※2 CDDPの投与日はd7からd14の範囲を許容とする
1日の中での抗癌剤投与順	なし
プレメディケーション	CDDP投与日：デキサメタゾン注9.9mg、パロノセトロン注0.75mg点滴静注、ホスアプレピタント注150mg点滴静注
ポストメディケーション	①CDDP投与日：腎毒性軽減のため2000mL～4000mLの水分負荷と投与硫酸マグネシウム注1A投与、尿量確保のためフロセミド注1A投与 ②CDDP投与2、3日目：1000mL以上の水分負荷投与、デキサメタゾン錠8mg内服

主な副作用とその対策	チェックリスト参照
患者条件	チェックリスト参照
除外規定	チェックリスト参照
実施上の注意点	通常外来でd1のS−1の投与を開始する

治療成績	SPIRITS試験よりS−1単剤より生存期間における優越性が証明された
その他	※1 S−1は体表面積に合わせて初回投与量を調節する 1.25㎡未満→80mg/日　1.25㎡～1.5㎡未満→100mg/日　1.5㎡以上→120mg/日 投与2回目以降は減量規定に合わせて投与量を調節する

参考文献　南江堂　リスク別　がん化学療法レジメン　改訂第2版
金原出版　制吐剤適正使用ガイドライン　第1版
大鵬薬品　TS−1+CDDP併用療法安全性情報